サイエントロジーの宗教的性質に関する簡潔な分析

J. ゴードン・メルトン博士
アメリカ合衆国
1981年5月10日

サミュエル S. ヒル博士
アメリカ合衆国
1979年8月12日

ギャリー D. ブーマ博士
オーストラリア
1979年10月30日

アービング・ヘクサム博士
カナダ
1978年2月6日

サイエントロジーの宗教的本質に関する分析の要約

J.ゴードン・メルトン博士
アメリカ合衆国
1981年5月10日

サミュエル S. ヒル博士
アメリカ合衆国
1979年8月12日

ギャリー D. バウマ博士
オーストラリア
1979年10月30日

アービング・ヘクサム博士
カナダ
1978年2月6日

サイエントロジーの宗教的本質に関する
分析の要約

目次

サイエントロジー宗教の概略研究
J. ゴードン・メルトン博士 1

サイエントロジー、新宗教
サミュエル S. ヒル博士 5

サイエントロジーは宗教であるか?
ギャリー D. バウマ博士 9

サイエントロジーの宗教としての地位
アービング・ヘクサム博士 11

はじめに

1950年代初期に生まれたサイエントロジー宗教は、その創設以来、世界各地の宗教学者からの関心を集めてきています。

この小冊子では、これまでに出版されたサイエントロジーに関する何百もの既存の研究報告の内、4つの分析の要約を掲載しています。それらは1978年から1981年にかけて著述されました。これらの著者はそれぞれ独特の見解を持ち、地理的にも、哲学的にも多様性を示しています。

サイエントロジー宗教の概略研究

J. ゴードン・メルトン博士

メルトン博士は1981年に次のように記述しています。

私はイリノイ州エバンストン市にある、宗教研究所の所長です。ここでは、アメリカ合衆国に存在する小規模の宗教団体に関する研究が行われています。過去10年間、この研究所の所長を務めてきました。

1968年にユナイテッド・メソジスト教会によって叙任された聖職者であり、イリノイ州エバンストン市にあるエマニュエル・ユナイテッド・メソジスト教会の牧師としても、3年半務めています。

「宗教に関する科学的研究会」および「アメリカ宗教の歴史協会」の一員です。

バーミンガム南部大学から文学士号を受け、ユナイテッド・メソジスト教会と提携するギャレット神学校から神学修士号を、そして1975年にはノースウエスタン大学から、宗教史と文学に関して博士号を受けました。

私は7冊の本を著作しており、『メソジスト派教義世界の百科事典』の編集者のひとり、そして『合衆国における宗教組織名簿録』の著者です。

過去16年間、牧師およびアメリカ宗教研究所所長としての任務に加え、私は『アメリカの宗教百科事典』を執筆するための研究を続け、その執筆を終えました。これはその数1,200に及ぶアメリカの宗教の数々を検討し、それぞれの歴史、実践、信条を記述した包括的な参照文献です。私の知る限り、これほどの規模の研究は1936年以来、最初のものです。

私はユナイテッド・メソジスト教会の聖職者およびアメリカ宗教研究所所長としての両方の立場から、サイエントロジーについて検討してきました。宗教運動の学者としての豊富な経験に基づいて、すなわちサイエントロジー教会の教義、信条、実践に関する私自身の研究や、

いくつかのサイエントロジー教会（ミズーリ州のサイエントロジー教会を含む）の視察、そしてサイエントロジー教会の聖職者数人との長期間に及ぶ会談に基づいて、サイエントロジーは文字通りの宗教であると判断します。それは良く考え抜かれた教義を持ち、至高の存在を信じることや、精神の自由とその永遠性への信念、礼拝と典礼制度、広範な聖職者カウンセリング·プログラム、そしてサイエントロジーの教義や信条を具体化するための地域社会における奉仕活動が含まれています。そのような完全なプログラムが、新興宗教によって、その初世代において達成されることは非常にまれなことです。サイエントロジー教会に対する私の検討は、結婚式や日曜礼拝サービスに個人的に出席することにも及びました。サイエントロジー教会における儀式は礼拝、結婚式、命名式、葬式を含み、『サイエントロジー創立教会の儀式』、および『サイエントロジー教会の背景と儀式』で詳細に説明されています。それらは伝統的な形式に従っており、教会の聖職者によって執り行われます。

サイエントロジー教会は、「至高の存在」への信奉や崇拝を支持するとともに、精神の永遠性と人が精神的な存在であることへの信条を固持します。このことは、この教会が始めたプログラム、その信条、実践、前述した文献を含む書物に見られるこの組織の総体的な在り方から明らかです。

その信条や崇拝、そして神あるいは至高の存在との関連性は、聖職者によって執り行われる教会プログラムやグループ礼拝、地域社会での活動、精神的成長のためのプログラムに明示されます。

サイエントロジー教会は、私たちがどこから来たのか、なぜここにいるのか、そして、どこへ行くのかという基本的な宗教的問いかけに取り組んでいます。

サイエントロジー教会は日曜礼拝サービスを定期的に行っており、メソジスト教会にあるように、それが週の中で最重要なものとはされていませんが、地域社会におけるグループ礼拝を提供するに至っています。

この教会は定期的にその信条を、慣例的な手段としての典礼や、宗教的な出版物の普及、地域社会におけるプログラムを通して広めています。

サイエントロジー教会は文字通りの宗教であると言えます。

J. ゴードン·メルトン
1981年5月10日

J.ゴードン・メルトンは、カリフォルニア州サンタバーバラ市にある、アメリカの宗教研究所の創設者であり、その所長です。メルトン博士は、多種多様なアメリカの宗教に関する研究プログラムを指揮してきており、1965年以来、アメリカで非常に顕著になってきた新宗教運動に特別な注意を払っています。博士は『アメリカの宗教百科事典』（1994年第4刷）を含め、20冊を超える書籍を執筆または編集してきており、その中には『崇拝体験、新時代の百科事典、アメリカの宗教的指導者』、そして最近では、『アフリカ系アメリカ宗教の百科事典』が含まれます。メルトン博士はユナイテッド・メソジスト教会の元老で、カリフォルニア州立大学の宗教学部で教鞭を執りました。

サイエントロジー
新宗教

サミュエル S. ヒル博士

ヒル博士は1979年に次のように記述しました。

私はアメリカ合衆国の宗教運動の分野における専門の学者であり、それは以下のように立証されます。

a. デューク大学から宗教学の博士号を受けた。

b. 宗教学教授として20年の経験を持ち、ステットソン大学で1年、チャペルヒル市にあるノースカロライナ州立大学で12年、またフロリダ州立大学では1972年以来、教鞭を執っている。

c. 宗教学の主題に関して3冊の本や数多くの論文を出版した。

d. この分野で定期的に教鞭を執っている。

私は過去1年半、サイエントロジー教会の研究を専門にしてきており、その特徴と本質を評価するのに十分な資格があると考えます。

ふたつの判断が私の評価のすべてに行き渡っています。第一に、この宗教組織が誕生間もないばかりで、まだ発展途上にあるということで、これはすべての新興宗教に当てはまります。次に、この宗教が西洋の聖書信仰やキリスト教、ユダヤ教よりも、ヒンズー教や仏教など東洋の宗教により似通っていることです。サイエントロジーについて評価する場合、西洋の宗教を基準にするのではなく、東洋の宗教に似通ったそれ自体の持つ基準を判断材料にしなければなりません。それが西洋の価値観、主張、前提に合うかどうかということは、それが宗教であるか否かとは関係ありません。

私はサイエントロジーがすべての宗教がそうであるように、次に挙げる4つの基準構成要素を持ち、宗教の定義に当てはまると結論付けます。

a. **信条**。最大限の精神的次元における活気に満ちた存在性が現実のものであることを教える。

b. **規律**。強固な倫理観に従い、物事に対する価値観を重視し、善悪正邪の区別を明確にする。

c. **崇拝**。（崇拝グループという意味で）人を精神的次元での現実性や究極の現実性、至高の存在または神と関連付けることを体系的に行う。

d. **集団**。グループとしての自覚が明確であり、組織化された宗教集団である。

これら4つの要素はそれがどこで行われているかに拘わらず、宗教運動を構成する典型的な要素と見なされます。

したがって、それは信念と実践を伴う真の宗教です。基本的にサイエントロジーは、知識または理解の仕方についての理論であり、それにより教会員は至高の存在が何であるか、また、個人的および社会的な健全性を回復するためにいかにしてそれに関係していくかを知ることになります。こういった知識や理解、崇拝を通して、人は自分自身、および神によって癒される関係にあることを自覚します。真の精神的自由に到達するまでの過程の中で、人は人生における障壁や障害物を排除し、本来の健やかで幸せな存在性を取り戻します。この点、ヒンズー教や仏教とよく似ています。

サイエントロジーは究極の現実または神の現実性を認めます。物事が究極的であるとか、最も純粋であるという「究極の現実」は、すべての人々にとっての充足した人生への道ですが、それに比べて「神」はここでは、あまり個人的ではない「至高の存在」のことを意味します。しばしばテクニックの形を取る啓示を通して、人々は至高の存在との結びつきや関係を感知するに至ります。これらの点で、サイエントロジーは西洋的ではなく、より東洋的で、仏教やヒンズー教に近いと言えます。物事が実際に、そして究極的にどうなっているのかについて、こだわることにより、啓発を目指します。

宗教的経験と崇拝のための主な形式は聖職者カウンセリングです。これは教会の聖職者がサイエントロジーを応用することによって行われます。これは人を啓発する主要な手段であり、至高の存在に結びつきます。一般的な宗教サービスも提供しますが、それらはサイエン

トロジーの理解については、あまりこだわりません。このカウンセリングでは、神との結びつきが実際に起こります。

宗教としてのサイエントロジーは、宗教一元論を主張しません。例えば、個人はサイエントロジーに加えて、ローマ·カトリック教などの他宗教を実践することが許されています。ここでもまた東洋の在り方により近く、忠誠心や関わり方の多元性を認めます。しかしながら実際には、他宗教をも併せて実践しているサイエントロジストの数はわずかです。サイエントロジーは過去29年の間に、健全な人生を現実のものにするための理論とテクニックであるダイアネティックスから教会組織へと発展しました。この宗教がさらに発展していくにつれ、ふたつの別の信仰を持つことに対する許容度が低下していくだろうと私は推測します。つまり、一宗教が宗教としての自覚をさらに高めていると私は見ています。

「応用宗教哲学」という用語は、西洋の宗教の枠組みから外して考えた場合に限り、サイエントロジーを描写するには適切です。その用語が何を意味するのかについて、肯定的な面は以下の通りです。

a. 個人が至高の存在に関連するための知識と手段を個人に提供するサイエントロジーは、宗教的だと言える。

b. それはより優れた自己洞察力、理解、健康、幸福といった結果（したがって「応用」）を重視する。

また別の一面では、歴史的事件に基づいた私的な神についての複雑な神学論（聖書信仰のように）ではなく、むしろ「哲学」によって観点、展望を指し示します。

法的、実践的、そして宗教的なアメリカの基準のすべてにおいて、サイエントロジー教会はその名が示す通り、真の宗教組織であると私は断定します。

サミュエル S. ヒル
1979年8月12日

ヒル博士はこの著述当時、フロリダ州立大学における宗教学の教授でした。

サイエントロジーは宗教であるか?

ギャリー D. バウマ博士

私は次の質問に関して専門家としての意見を求められました。

サイエントロジーは宗教であるか? 私はこの件に関しては以下の通り、専門家としての資格を持っています。

ギリシャ語および哲学学士号、カルビン大学

教会および社会学神学士、プリンストン神学校

社会学修士号、コーネル大学

宗教社会学博士号、コーネル大学

宗教に関する学術的研究に10年以上携わってきており、その間、それに関して数多くの著作を出版し、宗教の定義に関する討論会の議長を務め、またダルハウシィ大学、ミシガン州立大学およびモナーシュ大学では、宗教社会学について講義しました。

私は、サイエントロジーについてさまざまな本を読み、ヴィクトリア州にあるサイエントロジー教会を視察しました。これらの文献や教会の視察に基づき、サイエントロジー教会を宗教として分類することは妥当であるというのが私の専門的な意見です。それに関して次に詳しく説明します。

宗教の定義に関する研究には論争がありますが、競合するあらゆる定義において、サイエントロジー教会の信条と実践が宗教であることは議論の余地がありません。この主題における論争の中心は、至高の存在、原理または存在性に対する献身を基盤にして明確にされる意義体系とは違った意義体系を持つグループに対して、「宗教」という用語を適用することが実用的かどうかということです。サイエントロジーの信条は明らかにそういった献身から生じ、それを中心にしたものであり、宗教社会学者の間では、サイエントロジーが宗教であることに疑いの余地はないでしょう。

宗教社会学の創立者のひとりであるエミール・ダークハイムは、宗教を「聖なるものに関連する信仰や実践を統合する体系で、それを信奉する人々を教会というひとつの道徳的集団へと団結させるもの」と定義しました。

ゲルハルト・レンスキーはその影響力ある研究書『宗教の要因』の中で、宗教をこう定義しています。「人間の運命を最終的に決定する力の本質に関する教義の体系、およびそれに関係する実践であり、グループのメンバーたちによって共有される。」

こういった宗教の定義を用いれば、サイエントロジーは間違いなく宗教であると結論付けられます。

ギャリー D. バウマ
1979年10月30日

バウマ博士はこの著述当時、オーストラリア、ヴィクトリア州クレイトン市にあるモナーシュ大学の人類学および社会学科の教授でした。

サイエントロジーの宗教としての地位

アービング・ヘクサム博士

ヘクサム博士は1978年に次のように記述しています。

サイエントロジーの宗教としての地位に関する私の専門的意見を述べるよう依頼されました。教会の資料を検討し、教会員と会談し、サイエントロジーについての書籍を読みました。この研究の結果として、サイエントロジーの宗教としての地位に関する所見をここに述べます。

この所見を読む人たちが、私の結論の正当性を判断できるように、まず私自身の自己紹介をしようと思います。

私は福音派キリスト教徒で、ランカスター大学でニニアン・スマート教授の下で宗教学を学び、学士号を得ました。その後、ブリストル大学で宗教の歴史の研究をF.B.ウェルバーン師と行いました。大学学部生としての私は宗教と社会との相互作用についての研究に集中し、修士号のために英国の宗教運動について研究、そして博士号のために南アフリカにおけるカルビン主義とアフリカーナの国粋主義の関係を研究しました。大学学部卒業のための研究修了以来、私は南アフリカにおける宗教と西洋社会における新宗教運動に関心を持ち続けてきました。現在私は、バンクーバー市にあるリージェント大学で宗教哲学の助教授を務めています。リージェント大学は堅固なキリスト教の神学大学院です。

いかなる宗教運動においてもその宗教的本質を議論する場合、宗教の定義が主要問題のひとつとなります。学者たちによって、多くの異なる宗教の定義が提供されていますが、それらはおおざっぱに見て2種類に分けることができます。宗教を崇拝組織としての観点から定義するもの、あるいは宗教を人生の在り方としての観点から定義するもののふたつです。サイエントロジーの宗教的本質を評価するために、宗教研究の分野において世界的権威であるニニアン・スマート教授による定義を最初に用いました。この定義は1969年12月にランカスター大学の研究会で使われ、教授による論文「宗教の意義と定義」の中でも見られます。この論文の第一節、参照段落2.60で、スマート教授は次のように定義しています。

> 神または神を超越するものに対しての神聖な感情を表現したり、呼び起こしたりする伝統としての一連の慣習的儀式で、非凡な人による出来事の背景に見られ、神話または神話と教義によって少なくとも部分的に説明されている。

この定義および私がサイエントロジーについて学んだことを基にすると、ブリティッシュ・コロンビア州にあるサイエントロジー教会の教義と実践はサイエントロジーを宗教と定義付けるものです。またサイエントロジーは、宗教を総合的な人生の在り方とする定義にも明らかに当てはまります。これに関しては、1969年にランカスター大学で報告されたF.B.ウェルバーン師による研究論文について言及します。この論文の題目は「宗教概念を根絶することに向けて」です。この論文の中でウェルバーン師は、宗教を単なる崇拝活動としてではなく、総合的な人生の在り方として理解することを強調しています。師の定義から見ると、サイエントロジーを宗教として認識することには何の差し障りもないでしょう。

結論として、サイエントロジーの宗教的本質に対する私の立場は、ロイ・ウォリス博士のそれに似通っていることを付け加えたいと思います。私と同様、ウォリス博士はサイエントロジーを宗教信仰の真の表現だと信じています。しかしまた私と同様に、博士はサイエントロジー教会における特定の信条と実践に関しては批判的です。この陳述は、私が他の数多くの宗教運動についてもまた同様に批判的であるという事実によって緩和されます。

アービング・ヘクサム
1978年2月6日

ヘクサム博士はこの著述当時、カナダ、バンクーバー市にあるリージェント大学哲学部の助教授でした。